

平成30年度事業計画

1. 大阪市立博物館施設の地方独立行政法人化の進捗状況

大阪市は市立博物館施設の地方独立行政法人化について各種手続きを進めており、平成30年2月23日付で「地方独立行政法人大阪市博物館機構定款の制定」及び「同機構評価委員会条例案」が大阪市の会場で議決され、これにより正式に地方独立行政法人化が承認された。

予定では、平成30年11月に地方独立行政法の権利承継議案、職員引継条例案をはじめ重要な議案が大阪市の会に上程され、それらが承認されれば、平成31年4月には「地方独立行政法人大阪市博物館機構」が設立されることとなる。

これに伴い、大阪科学振興協会が請け負ってきた事業は、大阪市博物館協会の事業とともにこの新たな地方独立行政法人に統合されて引き継がれ、当協会は大阪市の指定管理者指定を取り消されて解散することとなる。

2. 平成30年度の取り組み

大阪市の予定どおり地方独立行政法人化が進めば、平成30年度は当協会が指定管理者として大阪市立科学館の事業を請け負う最後の年度となる。このため、当協会としては、平成29年度の事業計画で定めた下記基本方針に従い、平成30年度も引き続き大阪市立科学館の事業基盤を拡充し、その資産価値を高めて、その後の事業を地方独立行政法人大阪市博物館機構に引き継いでいくものとする。

また、事業実施にあたっては、地方独立行政法人化後も科学館の活動を担う学芸員の資質を向上させるために、内外の関係者も交えた事業検討会の実施、外部講師を招いてのプラネタリウム解説研修、海外博物館調査の実施など外部の視点を取り入れて活動を強化し、今後の運営を盤石なものとするための基礎体力を作り上げる。

●基本方針

平成29・30年度において、「大阪市ミュージアムビジョン」で示された取り組みを進め、大阪市立科学館のミッション「科学を楽しむ文化の振興」を実現するための事業基盤を最大限拡充する。

●平成30年度の重点取り組み

平成30年度は大阪市によって地震対策として法律で定められた当館吊天井改修工事が行われることとなり、これに伴い平成30年9月から展示場が休止し、12月から平成31年3月末までプラネタリウムも含めて全館休館を余儀なくされる予定である。

このため、当協会はむしろ休館期間を活用して科学館事業基盤を最大限拡充することとし、展示の改装、プラネタリウム機器の更新とホールの改修、チケット販売システムの刷新、空調設備の更新等、大幅な科学館リニューアル工事を実施し、平成31年4月には科学館のリニューアルオープンを実現させ、事業及び新たな事業基盤を大阪市博物館機構に引き継いでいくものとする。

また、地方独立行政法人化に向けてグローバルな企画を進めるため、今年度のドイツ博物館に続きオーストラリア国立科学技術館、通称クエスタコンとの国際パートナーシップ事業を実施し、世界に

発信する博物館を目指すものとする。

さらに、当協会は大阪市博物館協会とともに大阪市と地方独法化に向けた協議を進め、当協会が担ってきた事業のスムーズな新法人への移行を進める。

●重点取り組み項目

基本方針に沿った平成30年度の重点取り組み項目として以下の5点を掲げ、平成30年度予算において6億円の重点予算枠を設定して取り組むこととする。

(1) 常設展示の改装 【予算額 1.2億円】

当館の活動の柱である展示場は、開館以来3回にわたる大規模改装を行うことによって、日々進歩する科学や展示手法に対応し、年間約35万人という多くの観覧者を迎える実績を作り上げてきた。しかし、4階で公開中の展示物の多くは、公開から約20年を経過しており、老朽化が目立ってきている。そこで、日頃の調査・研究成果を活かし、老朽化した展示が数多くある展示場4階の一部フロアを改装し、常設展示物を新たに製作し、内容を充実させることにより、当館のミッション実現に努める。

- ・展示改装にかかる企画コンペ（プロポーザル方式）実施による委託業者決定
- ・展示フロア改装の実施設計と新規展示物製作、設置
- ・リニューアルオープンに向けた効果的な広報活動の実施

(2) プラネタリウム投影機の更新およびプラネタリウムホールの改修 【予算額 3.4億円】

展示場と並ぶ活動の柱であるプラネタリウムでは、ドームに星空や天体の動きを映し出す光学式投影機が、平成16年度の更新以来14年間使用したことに伴い、老朽化による機能低下が目立ってきた。そこで、より本物に近い星空とより精密な天体の動きが演出できる、大阪市立科学館専用の高性能な最新の投影機に更新し、科学館機能を強化する。

同時に、転倒事故が相次いでいるプラネタリウムホールのステージ段差の改良や観覧環境を改善する客席の移設など各種工事を実施する。

- ・光学式プラネタリウム投影機更新工事の実施
- ・プラネタリウムホール内の客席の一部移設による観覧環境の改善
- ・プラネタリウムホール前部ステージの段差改良による安全性の強化
- ・全天周映像システムのメンテナンス
- ・プラネタリウム音響ミキサー更新
- ・リニューアルオープンに向けた効果的な広報活動の実施

(3) お客様満足度向上に向けた設備更新等 【予算額 1.3億円】

お客様の快適性を高めるため、老朽化設備の更新等を実施する。また、チケット販売シス

テムを刷新し、クレジットカード決済やプラネタリウム観覧のインターネット予約等を導入するなど利便性を高める取り組みを進め、来館促進とお客様満足度向上を図る。

- ・展示場空調設備の更新
- ・チケット販売システムの刷新 など
(インターネット予約、クレジットカード決済等の導入)

(4) 国際パートナーシップ事業の実施 【予算額 800万円】

当協会では、科学館の活動をより強化し、視野の広いものにするために、ドイツ博物館など海外の先進的博物館との連携を実施しているが、30年度はクエスタコンとの国際交流に基づき、学芸員を相互派遣し、クエスタコンの西日本ツアーをバックアップする国際パートナーシップ事業を実施する。また、共同で事業を展開する事により、当館の魅力向上につなげる。

- ・クエスタコンへの学芸員派遣と相互交流の実施
- ・クエスタコンが西日本の各都市へ出向き、出張サイエンスショーと出張展示を行う「サイエンスサーカス」をバックアップし、科学館からも出張展示等を合同で実施

(5) 地方独法化へ向けた大阪市との協議の推進 【予算額 200万円】

地方独立行政法人化に向けた課題を協議するため、大阪市と大阪市博物館協会及び当協会による課題検討会議を立ち上げ、そのもとに学芸部門及び総務部門ワーキンググループを設置して議論を進めており、平成30年度も鋭意協議を推進してスムーズな事業の移行を進める。

- ・地方独法化移行の各種課題に係る専門的な助言・情報の当協会への提供等

1. 大阪市立科学館の管理運營業務受託事業(収入:205,712千円、支出:225,633千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。事業実施にあたっては、基本方針をふまえ、また地方独立行政法人への移行を見すえて、事業基盤強化および資産価値向上に資する活動を展開する。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

科学館活動の展開にあたっては、科学に関する実物資料が重要な柱の一つとなる。資料に基づいて調査研究を行い、その成果を展示やプラネタリウムをはじめとした各種事業の基盤とする事により、市民に質の高いプログラムを提供することが可能となる。30年度も引き続き、物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管ならびに調査研究を行う。

(2) 展示場の公開・管理

科学館活動の重要な柱である展示活動は常設展示とサイエンスショーを中心とし、あらゆる世代の市民が本物による実体験を通じて楽しく学び、学習意欲を喚起するように務める。事業展開にあたっては、学芸員が普段の調査研究に基づいて日常的改良を行い、魅力向上に努める。加えて、展示解説ボランティアや、科学実験デモンストレータなどの育成活動を通じて、市民参画・市民の生涯学習を支える。これら多彩な活動により、リピーターも含めた来館者数増と満足度向上を通じて、ミッションを達成させる。

なお、30年度は、館の吊天井改修工事に伴って、9月から3月末まで展示場の公開を休止する。そこで期間中に出張サイエンスショーや出張展示を実施し、引き続き科学の楽しさを伝えるとともに、科学館の知名度アップ、リニューアル後の来館者増につなげるための対応を行う。

- 1) 展示場の公開を行う(4階:宇宙とその発見、3階:身近に化学、2階:おやこで科学、1階:電気とエネルギー)。公開にあたっては、展示場が正常に機能するようにその保守管理を行う。特に、参加型展示固有の故障対応については、引き続き迅速な展示品の修繕に努める。
- 2) 展示品の評価、ならびに資料収集等による展示品の改良を随時行う。
- 3) 展示場公開休止期間中は、展示場4階の一部改修を行う(重点項目)。期間中は学芸員が工事の監督、全体レイアウト、各展示物の詳細仕様の検討と決定、解説文作成、試作等による実験などを行って新フロアを作り上げ、新年度のリニューアルオープンに備える。また、独自に製作した展示物を西日本の各地で出張公開し、出張サイエンスショー等を実施する(重点項目)。
- 4) 学芸員など専門スタッフによるサイエンスショーを実施する。展示場休止期間中は、学芸員による大阪市内の小学校へ出張サイエンスショーを実施して科学の楽しさを伝えると共に、学校現場での理科教育の状況やスキルなどを学び、よりよい事業展開に結びつける。
- 5) サイエンスショー研究会や事業検討会等を実施し、内外の関係者・識者を交えた議論、評価を通じて、サイエンスショーの質の向上を図る。
- 6) ボランティアが展示案内やエキストラ実験ショーを実施し、市民参画を促進する。
- 7) 展示解説の多言語化等のインバウンド対策を引き続き推進し、スマートフォンを使った展示解説アプリ「ポケット学芸員」による英語解説文のオンライン化などを通じて、増加している外国人来館者の満足度向上を図る。
- 8) 通常の活動に加え、工事期間中の活動および展示リニューアルの広報については、時宜を得たプレスリリース、地下鉄掲出ポスターやスマートフォン対応を含めたホームページ、SNSなども活用しながら推進し、市民等の利用を促進する。

(3) 教育・普及事業

展示事業やプラネタリウム事業に加え、市民の科学に関する学習機会の提供や、多様な興味関心に応えるために、様々な教育普及事業を展開し、当館のミッションを達成させる。展開にあたっては、他の団体や博物館施設とも連携し、幅広い活動を行う。

- 1) 未来の科学を担う人材の育成に資する「青少年のための科学の祭典」などを日本物理教育学会など他団体と連携して実施する。
- 2) 学校教育への支援のため、大阪市、府の教育委員会や教育系大学と連携して、教職員向けの各種研修を行う。
- 3) 大阪市博物館協会と連携しての各種活動を行う。
大学生などの科学館利用を促進するため「キャンパスメンバーズ制度」を継続する。
その他、大阪市博物館協会並びに同協会が運営する各館と連携しつつ事業を実施する。
- 4) 大阪管区气象台や電気学会関西支部をはじめとした各団体と連携し、科学教室などの教育・普及事業を実施する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

大阪市立科学館の事業・活動を広く知らしめ、来館利用を促進するとともに科学館の活動である科学の振興を来館時以外にも実施していくため、各種媒体や団体を活用した情報発信及び広報・宣伝事業を行う。また、プラネタリウムや展示のリニューアル、独法化をみすえた広報・宣伝活動を行う。

- 1) 出版事業及びホームページ、電子メールマガジンを活用し実施する。
- 2) 地下鉄車内張りポスター等を活用したPR活動を行う。
- 3) 事業案内チラシの発行を行う。また、リニューアル広報チラシを製作する。
- 4) 学校団体に向けた説明会を実施するなど、利用促進活動を積極的に行う。
- 5) SNSを活用したPR活動を行う。
- 6) 独法化を見据え、広報誌発行など、大阪市博物館協会と共同での広報活動を拡充する。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。また、9月からの吊天井改修工事期間中は、入口や通路、来館者の動線の変更を行い、来館者の安全確保に努める。

2. 自主事業(収入:95,166千円、支出:156,892千円)

当協会の自主事業においては、基本方針をふまえ、また地方独立行政法人への移行を見すえて、事業基盤強化および資産価値向上に資する活動を展開する。

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業(収入:87,266千円、支出:100,330千円)

当協会の基盤事業であるプラネタリウムでは、全ての世代を対象とする一般投影を主軸として、より多く、かつより幅広い年齢層の市民が、楽しみながら星空と宇宙の科学に興味を持ち、学習意欲を喚起するように努める。また、次世代に科学の楽しさを伝えるための学習投影、ファミリータイムなどの投影も実施する。投影テーマは学芸員による生解説と自主制作を原則とし、観覧者層の興味や時宜に応じた内容を取り上げ、科学的に質の高い投影を行うことにより魅力アップに努める。これらの活動により利用者増と来館者の満足度向上を通じてミッションを達成する。

なお、30年度は9月から展示場公開休止のため、10月～12月の3か月間はプラネタリウムのみの営業となる。また、12月からはプラネタリウム機器更新等の工事のため、プラネタリウム投影を4ヶ月間休止する。そのため、年間投影プログラムの大幅な改編を実施し、次年度以降の継続的利用を促す。

- 1) 一般投影は自主制作の6番組を投影する。本年度は日曜日、祝日、お盆期間などに実施している夕方の追加投影(17時～)を、土曜日にも拡大する。また平日の最終投影(16時～)は団体予約を取らず、静かにプラネタリウムを鑑賞出来る環境を整備することにより大人層の利用拡大を促進する。

9月から11月の期間中は、通常3ヶ月毎に変更する投影テーマを月替わりとして魅力を高め、リピーター増加を含めより多くの利用を促す。

- 2) 次世代の育成に向けて、小中学校の学習内容に沿った学習投影、幼児とその保護者を対象としたファミリータイムを実施する。従来実施していた団体専用の幼児投影はファミリータイム枠に統合して毎日実施し、ファミリー層も含めた幅広い層の利用促進を図る。

また、9月からの展示場休止と12月からの全館休館に対応し、4月～7月期に学習投影の投影回数を増やして、次年度以降の継続利用を促す。

- 3) 内外の関係者を交えたプログラム検討会や、外部講師を招いた生解説研修を実施し、より良いプログラム作成と質の向上、次につなげる評価を強化する。
- 4) 開館時館外に行う特別投影「スペシャルナイト」を2回実施し、通常投影ではできない実験的な投影や、より深く掘り下げた内容の投影を実施し、市民のより多様な興味関心の要請に応える。
- 5) 12月1日から3月末までは、プラネタリウム機器更新等の工事に伴い、プラネタリウム公開を休止する。工事期間中は学芸員が、工事の監督、新投影機の詳細仕様の交渉・決定、新投影機の操作習得と、新システムを利用した新しい演出プログラムの制作等を行い、新年度のリニューアルオープンに備える。
- 6) これら多彩なプログラムとその変更、およびリニューアルについては、時宜を得たプレスリリース、地下鉄掲出ポスター、WEBプロモーション(スマートフォン対応を含めたホームページ、SNS、口コミ活用等)、メディア露出強化など、広報・プロモーションを複合的に展開することにより、認知度向上と来館促進を図る。

(2) 全天周映像普及事業(収入:300千円、支出:0千円)

当協会の学芸員が制作した「オーロラ」「天の川をさぐる」「ボイジャー太陽系脱出!」等のオリジナルのプラネタリウム用映像ソフトは、引き続き配給会社を通じて広く配給し、館に制限されない広範囲にわたる科学普及を展開するとともに、科学館のステイタス向上につなげる。

(3) 普及啓発事業(収入:7,600千円、支出:31,426千円)

大阪市から受託した管理業務による事業に加え、市民により多くの学習機会の提供するために、教育普及事業を展開し、当館のミッションを達成させる。実施にあたっては、当協会で企画する独自事業に加え、他の団体や博物館施設のみならず企業や地域と幅広く連携し活動を行う。

1) 独自事業

- ①当協会発行の科学雑誌「月刊うちゅう」を編集、発行する。
- ②ボランティアによる展示場案内「サイエンスガイド」を引き続き実施する。展示場休館期間中は研修を実施し、ボランティアの技能・意欲の増進をサポートする。

- ③夏休み科学教室や天体観望会などのイベント型教育普及事業を引き続き実施する。
- ④アウトリーチ事業として、モバイルプラネタリウム・出張サイエンスショー・ワークショップなどを実施する。
- ⑤大型科学イベントのプロデュースや、科学普及事業のコンサルティングなどを実施する。
- ⑥アウトリーチ事業のスタッフや、エキストラ実験ショーのボランティアスタッフを育成するための研修を実施する。
- ⑦来館者アンケートや来館者分析を実施し、来館者の満足度向上および新規顧客獲得に向けたマーケティング・広報・プロモーション活動を展開する。
- ⑧出張サイエンスショーを実施するなど学校との連携をさぐる。
- ⑨H31年4月のリニューアルオープンを幅広い層に周知できるよう、様々な媒体を活用した効果的な広報・プロモーション活動を展開する。
- ⑩新規収益事業の検討、実施（企画展「にじのせかい」の他館への売込み、ユニークベニュー等）

2) 連携事業

- ①他館、機関、企業、団体等との連携活動を積極的に推進する。特に地方独立行政法人で合流予定の大阪市博物館協会ならびに傘下の館とは、共同広報誌大阪ミュージアムズの発行、文化庁助成事業の共同実施申請、こどものためのジオ・カーニバルの共催などを行う。
- ②また、周辺ホテル、大阪観光局、中之島ウェストプロモーション協議会、大阪PTA協議会、地域女性団体、近隣区役所、鉄道会社や旅行会社等に対し効果的な「プロモーション活動」を実施する。
- ③科学館友の会や市民が参画する各種の科学学習のサークル活動を支援する。
- ④日本IBM社によるジュニア科学クラブの科学教室、大阪管区气象台との気象イベント、芝浦工大とのロボット教室などのイベントを開催する。

(4) 中之島科学研究所事業(収入:0千円、支出:5,620千円)

30年度も引き続き活動を実施し、資料や科学、教育に関する調査研究活動を活性化させることにより、当協会の事業展開の質の向上を目指す。また、外部から招聘した嘱託研究員とも連携し、協会内の枠にとらわれない広い視野での活動を行う。

- ①物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。
- ②展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。
- ③理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、他の同種施設をリードし、わが国の展示活動の向上に貢献する。
- ④研究成果をコロキウムや研究会、論文等を通じて積極的に公表し、研究所活動の維持・発展に努める。

3. 付随事業(収入:17,310千円、支出:19,637千円)

<事業内容>

(1) 売店(収入:17,310千円、支出:19,637千円)

科学館内売店を運営（工事期間を除く）するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する。

※ 参考資料

平成30年度 一般向けプラネタリウム及びサイエンスショーテーマ一覧

期間	プラネタリウムA	プラネタリウムB	サイエンスショー
3月1日～5月27日	はるかなる大マゼラン雲	眠れなくなる宇宙のはなし	ふわふわ、きらきら！シャボン玉サイエンス
6月1日～9月2日	注目！火星大接近	眠れなくなる宇宙のはなし	スーパー磁石で大実験
9月11日～9月30日	今夜の星空トピックス		(休止)
10月2日～10月31日	オーロラ		
11月1日～11月30日	がんばれ！はやぶさ2		
12月1日～3月31日	(機器更新のため休演)		(休止)

※このほか「ファミリータイム」を毎日投影する。